登録コード	E7131300	開講年度	2026

授業科目	比較教育学演習Ⅱ							担当教員	林　寛平
英文授業名	Seminar on Comparative Education II							副担当	
単位数	2	講義期間	前期(隔週Ａ)	曜日・時限	木曜･５時限～６時限前半			対象学生	
講義室	教育Ｎ３０７			授業形態	演習	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー	該当								

(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	【授業の達成目標】
	２６Ｅカリ，２５Ｅカリ，２４Ｅカリ，２３Ｅカリ，２２Ｅカリ，２１Ｅカリ，２０Ｅカリ		
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観	⇔	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能	⇔	

(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働
(3)全学横断特別教育プログラム	
(4)授業の概要	2000年代に入り、国際学力調査の結果が各国のメディアで大きく取り上げられ、「比較教育学」が再び注目を集めている。この授業ではグローバルマーケットにおける教育政策の流通やコンサルティングの現状について学ぶとともに、実際に比較を用いた情報分析の方法について学ぶ。
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス 「比較教育学」を実践にどう生かすか 第 2 回：教育市場のグローバル化と教育産業の新たな展開 第 3 回：各国の政治・行政制度の比較―比較政治制度論から 第 4 回：各国の初等教育の比較―TIMSS，PISA等を用いて 第 5 回：各国の中等教育の比較―TIMSS，PISA等を用いて 第 6 回：各国の高等教育の比較―TIMSS，PISA等を用いて 第 7 回：各国の生涯学習施策の比較―PISA，PIAAC等を用いて ―課題①提出 第 8 回：GERMとGlobal Education Policy Market 第 9 回：テーマ別比較① グループごとにテーマを決める 第10回：テーマ別比較② テーマについて資料を集め、分析する 第11回：テーマ別比較③ 分析を踏まえ、発表原稿をまとめる 第12回：テーマ別比較④ 発表会 第13回：テーマ別比較の発表報告書作成 ―課題②提出 第14回：「比較教育学」を批判的に考察する
(6)成績評価の方法	成績評価は授業内課題(100%)です。第7回には各国の教育制度の比較をまとめたレポート(課題①)、第13回にはテーマ別比較の発表報告書(課題②)の提出を求めます。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上　秀，89-80%　優，79-70%　良，69-60%　可，59%以下　不可。
(7)成績評価の基準	各国の教育制度の情報を正確かつ適切に収集できるか、ISCED等の統一形式の意義を理解し、適切に活用できるか、比較対象のレイヤーを揃えて的確に分析できるかについて、すべての項目を満たしている場合には「卓越している」あるいは「かなり上にある」と評価する。
(8)事前事後学習の内容	事前学習課題については、eALPS上あるいはfacebookのグループページ上で掲示しますので、授業前に取り組んできてください。また、演習課題①②では、授業時間外の学習が必要になります。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(9)履修上の注意	外国語文献を多く扱いますので、基礎的な読解力が必要です。 授業評価アンケートを実施する場合にはご協力をお願いします。
(10)質問，相談への対応及び連絡先	質問・相談等は事前にメールでアポイントメントをとっていただければ随時応対します。 　メールアドレス：kampei@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	Pasi Sahlberg, Finnish Lessons: What Can the World Learn from Educational Change in Finland?, Teachers College Press, 2011. (ISBN: 9780807752579)
【参考文献】	OECD, PISA 2022 Results(Volume I) The State of Learning and Equity in Education, 2023.